

《学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の活動について》

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 NO. 22 令和4年12月13日 文責 渡邊

桑村小学校のコミュニティ・スクールの活動 地域の方を講師とした「桑村道場」の実践

本校では、水曜日の放課後を基本に「桑村道場」を開催しています。そこには、1年生から6年生まで勉強をもっと分かるようになりたいという児童が集まってきます。12月7日(水)にも、たくさんの子供たちが学習室である音楽室に集まり、講師の先生方の丁寧な指導のもと、楽しく学習を行いました。この「桑村道場」は、本校の学校応援団(桑村小のコミュニティ・スクールの呼称)の鈴木薫さんが中心となり実践しているものです。鈴木さんの声掛けに多くの地域の方々が協力してくれています。とても嬉しいことです。「桑村道場」での子供たちと講師の先生方は、笑顔に溢れています。分からないことが分かるようになることは嬉しいものです。下に提示した「桑村道場」での学習の写真から、楽しい学びの様子が伝わってくるのではないのでしょうか。



桑村小学校の職員研修の様子！

12月7日(水)の午後、桑村道場が開催されているとき、わたしたち教員は職員研修を行いました。授業者は第3学年1組担任の永田林伸教諭です。2校時に算数科の授業を参観し、子供の姿から、「主体的・対話的で深い学び」の授業の在り方を追究しました。

【第3学年1組児童の算数科の授業の様子より】



【タブレットで問題を解決】



【子供たちの学びを追う教師】



【友達と学び合う子供の姿】



【考えをつなげる子供】



【友達と学び合う姿①】



【友達と学び合う姿②】



【タブレットで整理】



【教師の温かな支援】



【操作活動も大切に】



【友達とともに操作活動】



【大切なポイントは？】



【タブレットでの振り返り】

3年生の子供たちの振り返りには、「みんなと学習して楽しかった」や「図形が分けられてうれしかった」等の意見が記されていました。今回の授業では、ノートに自分の考えを書くという活動は一切行われませんでした。しかし、子供たちはタブレット端末を活用した授業に少しも抵抗なく取り組み、「楽しい」という思いを持つことができます。それだけタブレット端末に図形を組み込んだり、文章を書き込んだりする学習に慣れてきていることが伺えます。タブレット端末では、画面上に図形を組み込んだり、その図形を思いのまま移動することができます。それは、これまでの学習スタイルを転換する便利なツールであることを証明しました。しかし、それだけでは深い学びに発展しない難しさもあります。この図形の学習において、ストローで作成した模型を操作することで答えを創り出す子供の姿があったのです。実際に手で操作し、五感を働かせながら自分なりの答えを導き出すのです。このことは大切なことですね。AI(人工知能)がいくら発展を遂げても五感を働かせた解決方法はできないでしょうから。それは、人間だからこそできる解決方法と言えるでしょう。永田教諭の授業の工夫はまさにそこにあります。タブレット端末というツールを活用した学習のよさと子供たちの五感をつなげた学びを形成したのです。だからこそ子供たち全員が、「楽しい」や「嬉しい」という感想をもったのだと思います。

「桑村道場」も同じことが言えるのではないのでしょうか。AI(人工知能)が発達し、個人のペースに合った学習ソフトが開発され、自分のペースに合わせた学習ができるようになるでしょう。しかし、そこに「楽しさ」や「嬉しさ」はあるのでしょうか。「分かった」や「できた」という経験は、嬉しい感情につながるでしょうが、人は他者に認められたときや褒められたときにその思いを大きくするのではないのでしょうか。「桑村道場」の講師の先生方は、子供たちの成長を自分のことのように感じ、喜んでくれます。そうした温かな関係性が「桑村道場」にはあります。

これからも桑村小学校だからこそできる教育活動を地域の皆さんとともに協働で創り上げていきたいと思ひます。